

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800326		
法人名	営利法人 株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート東金		
所在地	千葉県東金市堀上944		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成22年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通であること、を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに入ると、玄関先の季節に応じた装飾が来訪者を迎えてくれる。各ユニットからは、職員の明るい声、利用者の笑い声や歌声が聞こえ、ホーム全体が活気にあふれている。ホーム内の廊下壁面にも様々な作品が装飾され、ホームの雰囲気全体に暖かみを感じられる。職員間の連携も良く、日々の支援でも共に声を掛け合い、チームワーク良く対応されている。地域との交流も年々充実し、近隣の方から古布を回収する事で、自然にホームに足を運ぶ方が増えてきている。職員の育成にも力を入れており、ホーム内の研修にも積極的に取り組み、職員の技術や知識の向上に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の方言を使ったサービススローガンを共有し、実践に取り組んでいる。	ホームでは、スローガンとして「あんどんねえさ」という用語を用いて掲げている。「あんどんねえさ」とは、なんともない・大丈夫だよという意味であり、職員間で考え、全職員がスローガンを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	失禁時に使用する古布は近隣住民からの提供である。幼稚園や中学校、高校、理髪店、美容院、中華料理店など、少しずつではあるが交流が広がっている。	地域との交流については、近隣の幼稚園との交流、中学校の演劇部の来所、理髪店の利用、近隣の住民の方から古布を回収するなど、地域とのつながりが年々充実してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で介護の相談窓口となれるよう、広くホームの存在を知って頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域での活動状況や利用者の生活状況を中心に報告しており、助言をいただいている。	運営推進会議は、年6回実施されている。会議では参加者の方に、実際にホーム内で実施するレクリエーションを見ていただくなど、ホームの状況が伝わるよう、工夫した会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、市の担当者が参加して下さっており、ホームの状況を理解していただいている。	市との連携については、運営推進会議以外においても、運営上の相談を通じ良好な関係が築かれている。市の担当者との交流を深め、助言を頂くことで、サービスの向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前面道路は交通量が多く、歩道などもないため、玄関を施錠している時間も少なくはない。それでも身体拘束の弊害を理解しており、工夫に取り組んでいる。	利用者の安全面を考慮して、玄関の施錠を行う事もあるが、それによる弊害について職員は理解している。また、県から身体拘束防止に関するビデオを借り、ほ一内の研修に活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や朝礼等にて日常的に虐待について話し合い、防止に努めている。		

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は理解しており、必要があれば支援できる体制である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	トラブルはなく実践できていると判断している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価や運営推進会議が最も大きな機会と考えているが、ご意見箱やご意見専用のハガキなど活用している。	ご家族から意見や要望を収集する仕組みとして、ホーム側からご意見専用のはがきを郵送し、サービスに関する要望を収集している。要望が出た際には、職員間で検討し、日々のサービスに活かせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を求めており、概ね月一回の職員会議には代表者が参加することもある。また職員が本社へ質問等をできるよう専門のFAX回線がある。	職員からの意向や要望を収集する仕組みとしては、年度末に個別の面談を実施するほか、日頃から管理者が個別に意見等を聞き取り、研修の要望や食材に関する内容など職員からの要望や提案を積極的に収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月一回、管理者から事業所内の報告や相談を受ける機会を設け、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年一回の管理職研修や、年4回の事業所内の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、地域の会議に参加している。また、レクリエーションの勉強会など参加している。		

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用は、あくまでご本人やご家族の選択による。関係づくりが疎かであれば利用には至らないと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームとして、できることできないことをきちんと伝え、誤解のないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活が最も理想であり、可能な限り支援すべきであると考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の仕方や掃除の仕方、地元の歴史や言葉の由来、漢字など様々なことを教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を最も支えられるのはご家族であると考えている。遠方に住んでおられたり、多忙や高齢等の問題がある場合も多いが、可能な限り一緒に支えあえるよう情報提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数十年の馴染みである美容院へ行き続けている方や、デイサービスに通っていたころの友達が遊びに来る方などいらっしゃる。	ホームへ入居後においても、馴染みの人や場所との関係が継続できるように、通い慣れた美容院への継続利用や、友人の来訪についても制限することなく、関係が継続するよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな方や、関わり合いが混乱につながる方など、一人ひとりを理解し、支援に努めている。		

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望によるが、ホームは常にその準備ができており、いつでも相談して頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握が困難な場合には、ご家族に相談し、本人本位の支援に努めている。	利用者意向の収集は、ケアプラン作成前のアセスメント時に聞き取るほか、日常会話の中からも抽出し利用者の希望に沿った生活が送れるよう支援されている。表出困難な場合には、日々の行動で推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能な限り把握できるよう努めており、入居後も常に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼や会議、介護記録等により職員間で情報や意見の交換をし、常に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は常にモニタリングし、ご本人と話し合い、ご家族や主治医、薬剤師等に情報提供している。介護計画は、そのうえで作られている。	計画作成前のアセスメントの情報を基に本人の状況に即し、短期、長期の目標を設定している。ケアプラン作成に関しては、本人、家族のほか主治医の意見も踏まえた上で作成される。	今後においては作成したケアプランに即した支援が図れるよう取り組み、日々の個人記録の内容も、ケアプランに連動した内容となることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、往診記録、ヒヤリハット報告書などにて各お客様の状況等を共有し、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	仮にハワイへ行きたい、という希望があった場合でも対応は不可能ではない。		

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や医療、保健、福祉の他、理美容店や飲食店等と協働し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人やご家族の指定を基本としている。	利用者が適切な医療が受けられるよう、協力医療機関による往診を実施している。希望によってはこれまでのかかりつけ医の継続利用も可能である。提携先病院とは24時間連絡が取れる体制であり、日頃から担当医とも連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な看護職との協働はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はモニタリングを兼ね週に1回以上面会し、病院関係者と情報交換をしている。また日頃から、総合病院のソーシャルワーカーと定期的に情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入時の説明、及び状態変化の際の話し合いで方針を共有している。また必要に応じて主治医を交えカンファレンスを行っている。	重度化や終末期に向けた方針については、主治医を交えご家族とも方針について納得いくまで話し合いを行い、職員間においても方針を共有し取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の協力をいただき、普通救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行っている。	突発的な災害に備え、年に2回定期的に防災訓練を実施し、通報、避難方法、避難場所についても職員間に周知されている。また、緊急連絡網やマニュアルも整備されており、昼夜を問わず利用者が安全に避難できるよう取り組まれている。	今後においては、地域からの協力が得られるよう、引き続き協力依頼をし、体制が充実していくことが望まれる。

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なうことは虐待であると考えている。	法人として、「利用者のプライバシー配慮に向けた規定」があり、ホーム内の内部研修でも活用し、全職員が利用者のプライバシーに配慮した支援ができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食の行き先やメニューを決めていただいたり、買い物で商品を選んでいただくなど、日常的に選択する場面を作り、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転等、生活のリズムが崩れない限り自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマをかけたり、希望の店に洋服を買いに行ったり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に漬物を漬けたり、おやつゼリーを作ったりしている。	食事の準備や後片付けに関しては、利用者も主体的に取り組んでいる。今年度より食材は、業者から宅配されるシステムとなったが、おやつ作りや野菜の栽培等、利用者が主体的に取り組めるよう、工夫した対応を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の献立は栄養士が作っており、水分はそれぞれのコップや湯飲みに入る量を計測し、毎日の水分量を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて歯科医の指示をいただきながら行っている。		

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後、それまで使っていた紙パンツを使わなくても失敗しなくなった方がいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては、「個人記録」に残し、職員間で把握している。排泄は、トイレで行う事を基本とし、おむつの使用を減らし、自立に向けた支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安として曜日や時間を決めていますが、希望に沿って対応している。	入浴に関しては、曜日を決めて対応しているが、利用者から希望があれば希望に応じ入浴できるよう支援している。入浴中は職員は見守り、状態に応じて介助に入り、安全に入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	殆どの方が入居後、睡眠導入剤や安定剤を中止、または減らすことに成功している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師の指導のもと実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や外出が中心となっているが、役割をもっていただいたり、気分転換に出掛けたり支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の外出は希望があれば可能な限り対応している。また、今年度は希望者だけであるが、鴨川シーワールドへ遊びに行った。	ホームでは、年間行事計画が策定されている。今年度も希望者を集い、テーマパークへの外出など、遠方まで出かけるなど、利用者の希望に沿って、様々な外出活動が実施されている。	

グループホームガーデンコート 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、ご自分でお金を管理していない方でも、買い物の際はお金を渡し、ご自分で支払っていただくなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっており、手紙も積極的に勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、季節ごとに装飾を変えるなど工夫している。	共用のスペースは季節ごとに装飾を変え、利用者が共同で作成した貼り絵が掲示されている。また、共用部分には利用者の希望に応じコタツを設置するなど、居心地良く過ごせるよう工夫するなど、ホーム全体に暖かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空きスペースや廊下にソファを置くなど居室以外でも思い思い過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものがない場合は、ホーム内でご本人が作った作品などを飾り、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	居室内には、使い慣れた愛用品の持ち込みを可能とするほか、利用者が作った作品を掲示するなど、居心地良く過ごせるよう工夫が図られている。居室内の配置は利用者の意向を重視し、利用者が快適に生活できるよう取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要によって、見えやすい色の食器を使っていたり、食堂とトイレの間の廊下に誘導用のテープを貼るなど工夫している。		